



謹啓春寒料峭益

西清雅尚江遊大矣

有存片 次二水生子良金匠者

正博所放念以好福

清打絶而念音以多

得海思中之方且實

耳氣爭從驛中くお

地方の隅まで其方

取らぬ物に開後人

河車の手に附か

乙車柄の念之為

念河法中

最早三月十日切



三河古中

最早三月一日切迫政事

得者数年中幾く^い監獄中は

監獄中に何とか始末せざるを得

たる次第とあるは我輩ならん最

初郡部三前橋士二人と

再監獄⁽をらふことに決定時し政

左多子部への様子の支部

協議し無事に監獄中を結了

するが既述の^い松の

代りとして相當の人物を之

遂に彼の輩新派と稱する一

派は山口小一と申す武雄の馬

方を提出し政友会支部を之を

再認するべきあるは我輩の

向志中彼小が此を小人を監獄

中せしめしは不承承との議論

曰志中 彼小が如き小人と既(中略)
衆中せめては不承承との議論
沸騰し為めに西黨支部の交
渉は破裂し我黨は其前代
縁士二人の外に永野静雄を
候補者とす(中略)衆中を争ふ
たに決定は長日之を以て五人の定
員に六人の候補者と既(中略)存
一人は無論失敗せざるを得ず
其失敗者は彼を在るか我を
在るか昨年投票の定員に
徴すれば我中の投票不足を
るべしと津守(宛)一人を失
敗せしむる為め縣下全体に競
争せざるを得ず其中より我
の力なきやまの如きは最(中略)
隘の地位にお立ち

陸の地位におき所

市部は形勢未判然然

去長湯共凶方は江副も福人

氣附、権持侮へからすと存是

江部、後、訂畫臣在の友

是より按心討力欠乏の为め意

の如く出て討つに能はず甚苦

心也

右縣下直白の事情概要

中二五頁の四頁年と書

解在期後部と恐懼相果

二月十八日

武富時敏

大隈老伯閣下

侍者